

現場へ!

「広場造るから」に賛否二分

再開発 都心「番町」で⑤

中断していた東京都千代田区・番町地区の「日本テレビ通り沿道まちづくり協議会」が2年ぶりに再開するにあたって、座長が交代した。超高層ビルの建設に慎重な明治大教授の山本俊哉(62)に代わって起用されたのは、東京都市大

教授の明石達生(60)だった。明石は東大卒業後、1984年、建設省(現国土交通省)に入省。再開発制度の立案に携わるとともに、横浜市の課長に転出し、自治体行政の現場経験もある。日本テレビの超高層ビル計画に

反対する「番町の町並みを守る会」は2020年、区が日テレの計画地に導入を検討している「再開発等促進区」制度を学ぼうと、同制度の立案にかかわった明石を招いて勉強会を開いた。再開等促進区とは、土地の利用状況が大

きく変わる地域で、公共施設を整備すれば高い建物ができるようにする仕組みだ。

「勉強会の様子を区の人が見ていて、それで私がかかったんです。単に高さだけの議論にせず、建設的な議論をしていきたい」と明石。協議会を再開する以上、前に進めたいと考えた。

再開後の21年3月に開かれた第8回協議会で、座長の明石は「番町地域は子供が増えたが、公共空地が少ない。子供にとってどうなのか気がなった」と切り出した。以降、議論は広場の有用性に焦点が移っていく。

日テレは15年に「番町の庭」というカフェ併設の広場を、21年には「番町の森」という公園を、ともに永続的ではない「暫定開放」の位置づけで開設している。7月

「広場をやるから高さをくれという魂胆が見え透いている。そもそも日テレさんはここに高さ規制があるのはわかっていたでしょう。だったら規制を守るのが当然です」と反論した。同じく共同代表の建築家、大橋智子(67)は、高さ60メートルの現行の規制に抑えても「番町の庭」の3〜4倍規模の広場が造れる試案を示した。議論は真つ二つに割れた。

これに対して、出席した「町並みを守る会」共同代表のグロービュス経営大学院学長、堀義人(59)は

「日テレさんの開発計画案が整った後に次回の協議会を開きましよう」と締めくくった。敬称略

(編集委員・大鹿晴明)



①日本テレビがスタジオ棟(奥)の隣の旧本社跡地に設けた「番町の森」。子供たちが遊ぶ公園になっている
②「番町の庭」は、カフェが人気だ
=いずれも東京都千代田区



日本テレビホールディングスの旧本社周辺。白い建物がスタジオ棟=2021年11月10日、本社ヘリから、迫和義撮影



オンラインで中継された11月の「日本テレビ通り沿道まちづくり協議会」の様子



■

■

■